

## 事例 12 キヤノン株式会社

- ～ 健康第一主義×三自の精神（自発・自治・自覚）を基盤とした、グループ全体での施策展開 ～  
～ 会社と健康保険組合の共同で ICT ツール（KenCoM）を活用し、健診結果の伝達、健康状態に応じた健康情報の提供、ウォーキングイベント等を実施 ～

<b>1 企業の概要</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○カメラ・ビデオ等映像機器、プリンタ・複写機等事務機器、デジタルマルチメディア機器、半導体露光装置等を製造する電気機器メーカー。</li><li>○従業員数は、単体で約 26,000 人、連結で約 20 万人。</li></ul>
<b>2 健康確保対策の特徴</b>
<p>(1) 取組の体制、経緯、方針</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○グループ行動指針として「健康第一主義」を位置づけ。</li><li>○キヤノン式健康経営の実施（健康第一主義×三自（自発・自治・自覚）の精神）。</li><li>○本社の安全衛生部が中心となって、企業グループ全体の取組を実施。</li><li>○中央安全衛生委員会（代表取締役副社長が委員長）で対策を承認、中期計画を作成し施策を展開。</li><li>○会社と健康保険組合でコラボヘルスを推進し、①若年層は会社中心、②40－60 才は会社と健康保険組合、③60 才以降は健康保険組合中心の取組。</li></ul> <p>(2) 取組の内容、目標設定、成果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○休業・休職日数、健康診断ハイリスク者、がん検診受診率、医療費について目標設定。</li><li>○定期健康診断結果（9 年間のデータ）から生活習慣病発症の要因分析を行い、メタボ発症要因を明らかにし、発症リスクを数値化。喫煙、早食い、定期運動なし、短時間睡眠に着目して対策を展開。</li><li>○2016 年より国内グループでの敷地内禁煙実施（禁煙指導スタッフ養成、喫煙区域マップ、禁煙者支援）や睡眠対策（睡眠計を用いた指導、快眠キャンペーン）を実施。</li><li>○キヤノン体操、ウォーキングイベント、階層別教育、社内報、e-ラーニング、イントラネットを活用した啓発。</li><li>○会社と健康保険組合の共同で ICT ツール（KenCoM）を活用し、健診結果の伝達、健康状態に応じた健康情報の提供、目標管理、ウォーキングイベント等を実施。</li><li>○健康づくり取り組みによるポイント獲得（KenCoM）制度あり。</li></ul> <p>(3) 社会的な評価</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○中災防方式 OSHMS を発展させたキヤノン式 OSHMS を導入。</li><li>○健康経営優良法人 2018・2017</li><li>○スポーツエールカンパニー</li><li>○体力づくり優秀組織表彰</li></ul> <p>(4) 自社の状況（強み・弱み等）を踏まえた工夫や、取組が上手いくポイント</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○健康づくり施策のみでなく、「健康第一主義」にもとづいた働き方全体を意識した人事施策などの継続的な実施。また、健康保険組合、労働組合との連携などの組織的な取り組みや、データ分析を積極的に行うことでの納得感のある施策展開が効果的。</li></ul>